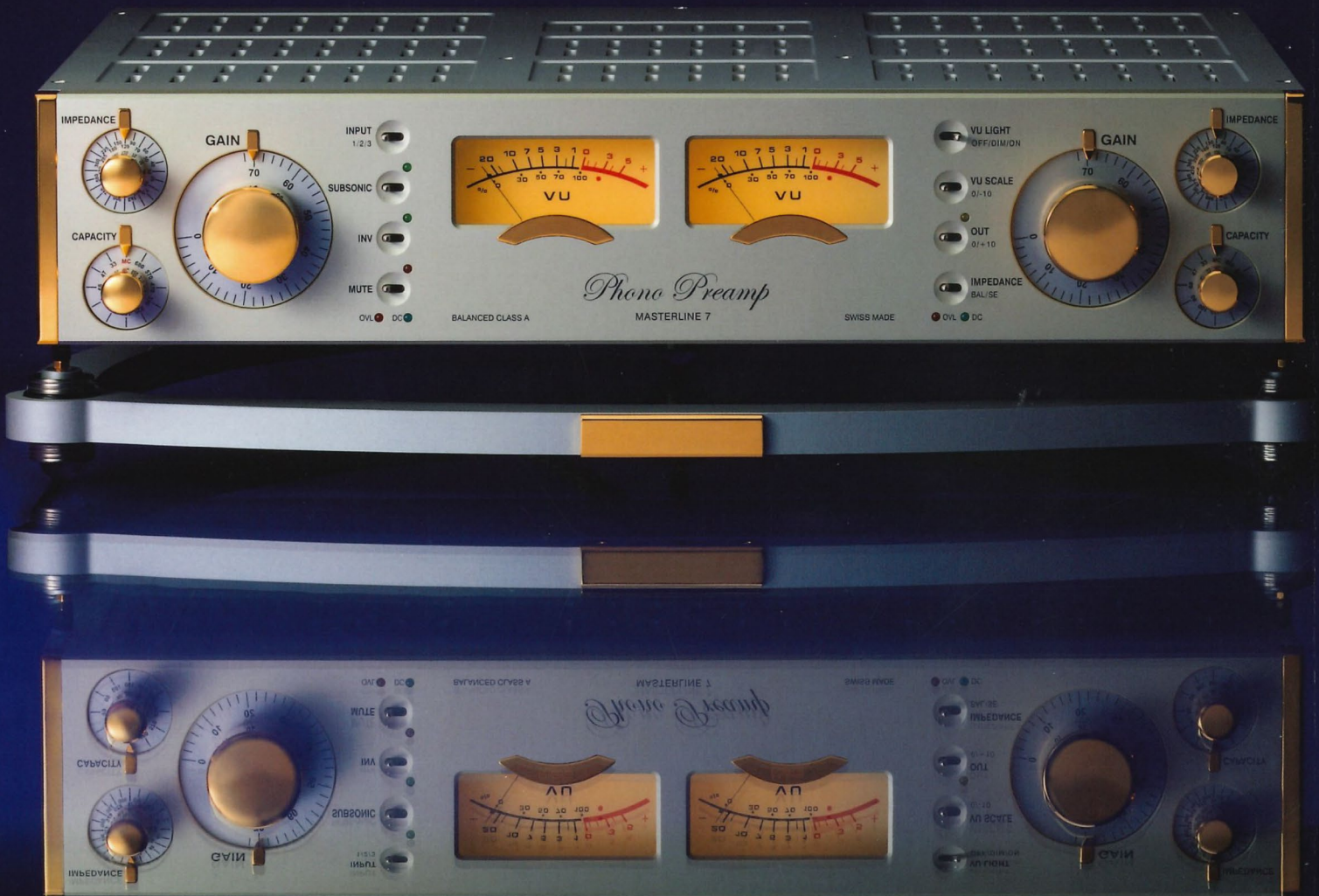


Stereo Sound

グランプリ2019
Stereo Sound GRAND PRIX
ベストバイコンポーネント
2019-2020 BEST BUY 565選

[特別SACD付録]
 Berliner Philharmoniker Recordings全面協力
ベルリン・フィル名演集
 (完全未発表曲収録)
 ヴィルヘルム・フルトヴェングラー
 クラウディオ・アバド / サー・サイモン・ラトル
 キリル・ペトレンコ / クリスティアン・ティーレマン

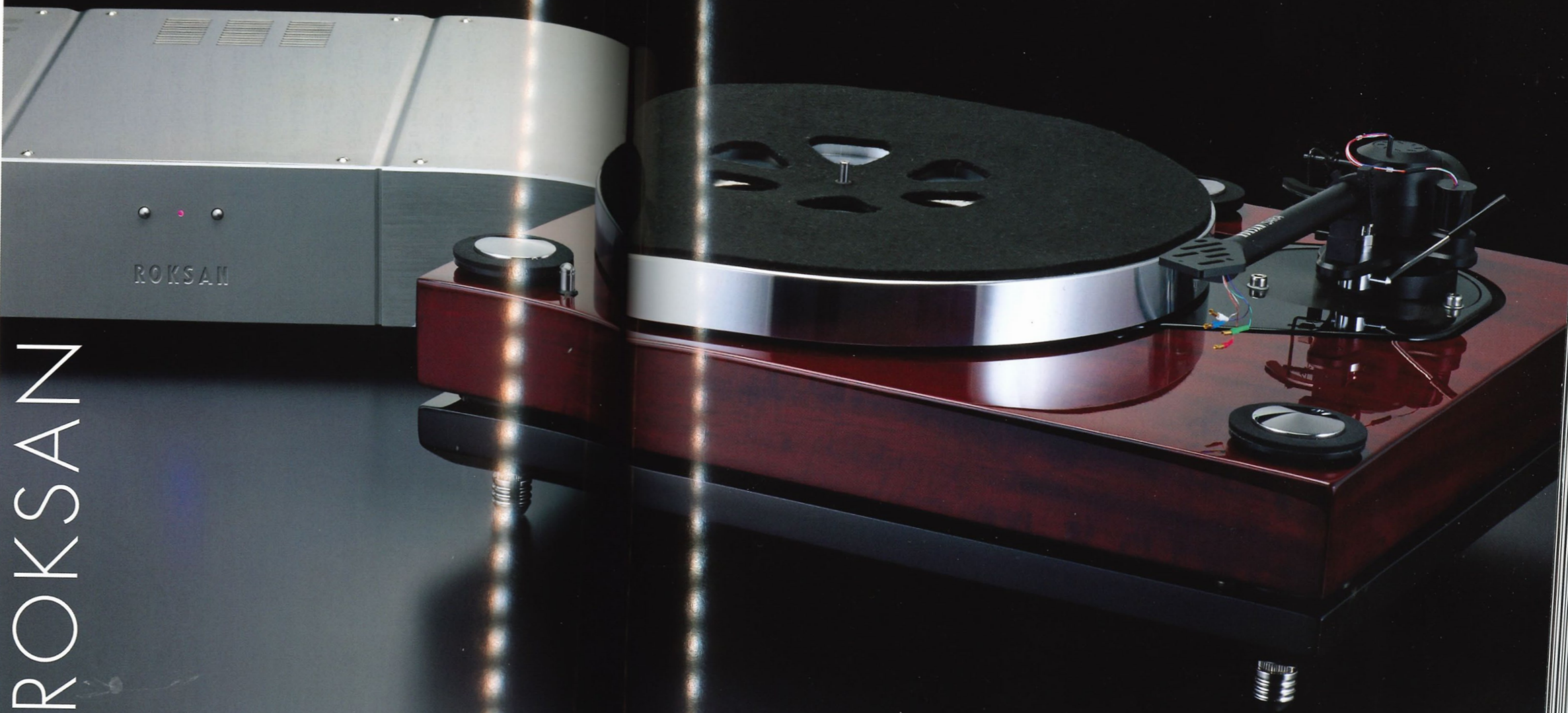


2 0 2 0
 W I N T E R
 N o . 2 1 3

トーンアーム部 (Sara) ●型式:スタティックバランス型 ●スピンドル / ピボット
間:222.5mm ●適合カートリッジ重量:5~12g
ターンテーブル部 (Xerxes 20 RPM) ●型式:アームレス型 ●駆動方式:ベルト
ドライブ ●回転数:33.1 / 3, 45rpm ●寸法 / 重量:本体・W450×H115
×D370mm / 12kg、電源部 (RPM)・W432×H80×D330mm / 12kg ●
備考:写真の仕上げはグロス・ローズウッド、他にグロス・ホワイト、グロス・ブラッ
クあり ●問合せ先:株式会社ナベック ☎0120-932-455 ●試聴記掲載:212号

AD PLAYER

ロクサン
Xerxes 20 RPM + Sara
¥950,000 + ¥350,000



ROKSAN

凛として明瞭、軽快で
芯がしっかりとした
積極的に聴かせる音

SARAは、従来機であるザクシリーズ20プラスに、新型の電源部と1点支持トーンアームを組み合わせたモデルになります。
小野寺 いまのロクサンには創業メンバーは残っていませんから、当然、オリジナルモデルの設計者もいま

小野寺 イギリスのロクサンの製品が、ステレオサウンドの年度賞の席上で話題になるのは嬉しさじぶりのことだと思っています。このメーカーは1980年代後期に、アナログプレーヤー「ザクシリーズ (Xerxes)」でデビュー。ぼくはそれを初めて聴いたとき、その斬新な機構、そして何より、それまで知らなかった切れ味がよくて胸のすく音に本当にびっくりしてしまつたことをいまでもよく覚えています。
三浦 ロクサンはその後、エレクトロニクスの分野にも進出して、総合的なオーディオメーカーになっていくのですが、日本にはなかなかしっかりと紹介されてこなかったようなところがありますね。

柳沢 そうですね。ですからぼくなんかは、あまり馴染みのないブランドなんですよ。
小野寺 それが近年、イギリスのメーカーそのものの体制も、輸入代理店も変って、こうして「ステレオサウンドグランプリ」を受賞した。個人的な事情はここでは関係ないとはいへ、思い出も思い入れもあるブランドですから、一種の感慨がありますね。しかもオリジナルからX(10IIテン)を経て20となつた、デビュー作の系譜にたつたモデルなので思いは入ります。
三浦 その受賞作、ザクシリーズ20RPM+

せん。でもオリジナル機のひじょうに細いセンタースピンドルや、振動を制御するトップボルトのスリット、負荷変動を吸収するモーターマウントなど、大切な機構はきちんと踏襲しながら、より安定した動作と使いやすさを実現しているところが素晴らしいですね。
和田 音の切れ味のよさ、鮮度感の高さ、爽やかさ、そういう音の魅力がザクシリーズにはあつて、ぼくはずっと愛用しています。ある意味CDに負けない、あるいはそれに勝る聴感上のS/Nのよさもある。今回は新型アームの威力もあつて、さらに充実した音となつているのが本当にいいですね。
柳沢 芯がしっかりとして、積極的に聴かせる音です。
三浦 サイズもコンパクトで、重厚長大路線とは別のアプローチで音質を追求しているアナログプレーヤーの代表的な存在でしょう。その結果、機敏で軽快な音が飛び出してきて聴いていて気持ちがいいんですよ。
傳 歌手の背筋が伸びたかのような、凛として明瞭な、美しい音のするプレーヤーですね。
小野寺 トーンアームのSARAはユニビウオットのフラフラ型なので、調整が難しい面がありますが、うまくいけば極めてよく伸びる音が聴けますし、上級トーンアームの発売も予定されているということで、今後がますます楽しみです。サイズ・価格を含め、いまもつとも素敵なプレーヤーのひとつだと思います。